

#### 第44回 工賃向上に「会計」の知識は必要？ 必要ではない？

『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』という書籍とその続編が売れて、後に続くいわゆる「会計本」の類も売れた時期がありました。「会計」について知りたい、でもちゃんと勉強したことがなくて、とっつきにくい(×\_×)、と思う人が多かったのだと思います。

最近では会計本が売れてるという話はあまり聞きませんが、これは会計のシステム化が進んで、きちんとした勉強をしなくてもとりあえず会計業務ができてしまうようになったからかもしれません。

しかしシステム化が進んでも、「会計」を理解していることの重要性が減じたとは思えません。事業における「意思決定」の基本は会計であり、それは人間の頭の中で必要になることだからです。

そして「工賃向上」を合理的に進めるにも、会計の知識が必須です。

例えば、いずれも110円で売れるAパンとBパンのどちらをより多く売った方が、工賃向上に資するか。それを決めるには、AパンとBパンの両方の原価を把握する必要があります。そのために、会計学でいう「原価計算」の知識を使います。

このような「意思決定」の場はたくさんあります。そもそもの値付けもそうですし、どこまで値下げしてでも売った方がいいかも、原価計算をしているから決められるのです。

その他、例えばアルバイトの賃金を決めるのも、広告費の予算を定めるのも、設備投資の可否を判断するのも、全て会計の知識がベースになります。そうでなければ、カンとか好き嫌いとかだけで決めるか、外部のコンサルなどに丸投げすることになってしまいかねません。

では、学校などで会計の勉強をしたことのない人が、会計の基本をとりあえずマスターするにはどうしたらよいのでしょうか。てっとり早くてローコストの方法として、市販の日商簿記3級テキスト・問題集をやってみることをお勧めします。やってみれば、そんなに難しいものではないことがわかるでしょう。3級レベルを一応マスターしたら、2級レベルにも入っていただけます。2級では原価計算や意思決定会計の基礎を学びますので、上記のような判断の場で、役に立てることができるようになります(\*^\_^\*)。